

最優秀賞

今までの恩返し

前橋市 磯貝彩花（22歳）

私には、七十九歳の祖父と七十六歳の祖母がいる。祖父は、自分の身の回りのことはできるが、入院をしていた時期もある。祖母は、頸椎の手術を七年前に受け、歩行等が不自由で、一人で生活することは難しい。祖父母は二人で生活しており、ヘルパーや自宅の清掃のサービスを活用しながら生活している。

お盆休みの帰省の際に、祖父母宅を訪ね、ふと感じたことがある。それは、今までできていたことが出来なくなったり、難しいと感じることが増えたなどということである。私が幼稚園生、小学校の頃は、休みの日になると、牧場や遊園地、各種イベントに行ったり、近くのデパートへ買い物に行ったりなど、実に様々なところへ連れて行ってくれ、おいしい手作りの料理を食べさせてくれた。年齢や体のことを考えると、出来ないことが増えることは当然なのかもしれないが、実際に自分の身内がそのような状況になると、さらに老いというものを実感するようになった。今では、私が車を出し、祖父母を連れて買い物に出かけ、私が台所に立ち食事を作る。祖父母は、私の成長を喜んでくれると同時に、申し訳ないと言っていた。

私は、以前から考えていたある考えを初めて祖父母に告げた。それは、もし地元就職することになったら、祖父母の家に住みたいということだった。それを言うと祖父母は、迷惑をかけることになるとから賛成はできない、もし今以上に体が思うように動かなくなつ

たら、介護の面倒もかけてしまう、そんなことを孫にさせたくないと言われた。最後に言われたのは、「彩花も、年寄りのうんちやおしっここの世話なんてしたくないでしょう。」ということだった。私は、最後の言葉に対して自分の考えを述べた。「じいちゃんとはあちゃんとは、私が赤ちゃんの頃、うんちやおしっこを汚いと思ったことがあるのか。私は、嫌な顔もせず、私のおむつを交換してくれた人のうんちやおしっこを汚いとは思わない。二人が迷惑をかけたくないから一緒に住みたくないという気持ちは分かったけど、うんちやおしっここの世話をしたくないから住むのを止めようとは思わない。」と伝えると、二人は何も言わず、ただ涙を流していた。私も自分からそんな言葉が出るとは、思ってもみなかった。

私の祖父母の迷惑をかけたくない気持ちや申し訳なく思う気持ちは、よくわかる。しかし、私は今まで祖父母にしてもらったことを返しているだけであり、これが私から祖父母への恩返しだと思っている。祖父母が本当に嫌だと思うことはしないが、何か祖父母の力になることが私にできるのならば、私はそれをしていきたい。

祖父母が今まで私の力になってくれていたように、私も祖父母の力になつていきたいと思ったお盆休みだった。